

広
報

常陸大宮

2023

7

No.226

特集

現代に残る弥生時代

人面付壺形土器「いずみ」、
初の海外展示 ギリシャへ

特集

現代に残る 弥生時代

人面付壺形土器「いずみ」、 初の海外展示 ギリシャへ

常陸大宮市泉に位置する「泉坂下遺跡」には、弥生時代の歴史が今もなお残されています。そこで出土した人面付壺形土器「いずみ」は国の重要文化財として指定されており、この度、初めて海外で展示されることとなりました。

今月号では、海外展の様子や「いずみ」の資料的価値についてお伝えします。



弥生時代の美術の代表として「いずみ」が展示

ギリシャ・イラクリオン考古学博物館 特別展「日本の美の原点」

6月2日から9月24日、ギリシャ共和国イラクリオン考古学博物館で行われている特別展「日本の美の原点」で、市内で出土した人面付壺形土器「いずみ」が展示されています。

この展示会は、オリンピック発祥の地ギリシャを会場に、東京国立博物館が縄文時代から古墳時代までの文化を彩る出土品などを紹介し、広くヨーロッパの人々に日本の原始美術の魅力を伝えるものです。

当初は令和2年(2020)の東京オリンピック・パラリンピックに合わせて開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期となっていました。

この展示会には東京国立博物館の所蔵品など約60点が出品され、縄文時代に作られた遮光器土偶(重要文化財)や弥生時代の袈裟(重要文化財)とともに、「いずみ」は日本の弥生の美を代表する優品として旅立ちました。



▲ギリシャでの展示に向けて出発準備。あごや首など、特に割れやすい部分を念入りに保護し、万全の体制で旅立ちました。

「いづみ」が展示されたイラクリオン考古学博物館は、ギリシャ共和国南東部に位置するクレタ島にあります。

ヨーロッパの人々に人気の高い観光地であるクレタ島は、古代ギリシャ・ミノア文明が栄えた場所として知られ、クノッソス宮殿など数多くの遺跡があります。そのミノア文明の出土品が展示・收藏されていることで世界的に有名なのが、イラクリオン考古学博物館です。

「いづみ」を見たギリシャの方々からは、顔の表現や用途などについて質問が寄せられ、多くの方々の注目を集めました。



▲ギリシャ共和国クレタ島 イラクリオン考古学博物館



▲「日本の美の原点」図録でも、ギリシャ語、英語で「いづみ」の特徴や「いづみ」からわかる弥生時代の文化について説明されています。

ギリシャでの展示中も歴史民俗資料館で「いづみ」レプリカをご覧ください

常陸大宮市歴史民俗資料館

場 中富町1087-14 ☎52-1450

休 月曜日、祝日、各月末日

▼ギリシャに到着。多くの方々に「いづみ」を見ていただきました。(写真右から) 東京国立博物館 藤原館長、ギリシャ共和国クレタ島 アルナウタキス知事、奈良国立博物館井上館長、駐ギリシャ日本国大使 中山夫妻



ナンバーワンにしてオンリーワン

現代に残る弥生時代の至宝「いずみ」

鼻筋が通っている
鼻の穴が開いている

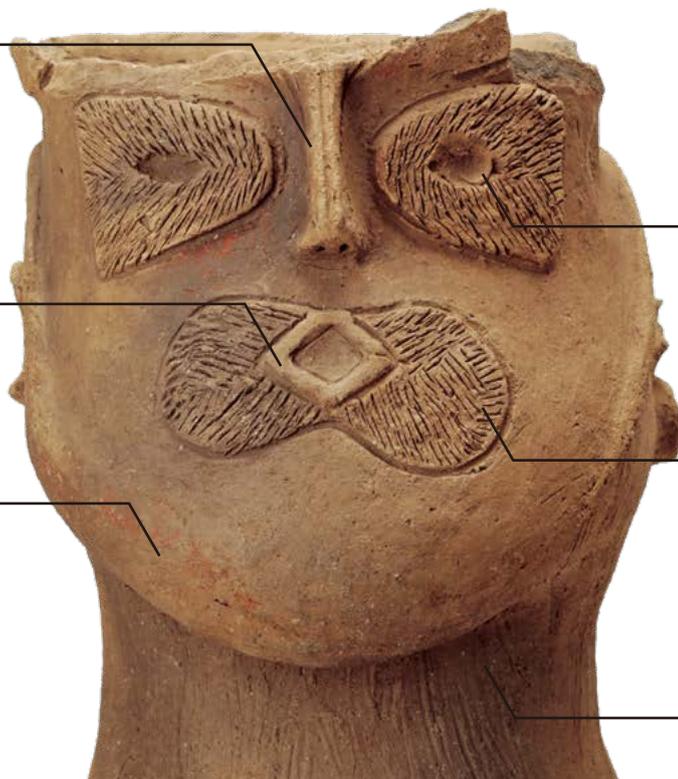
左右の目が違う

口はひし形

もとは赤く塗られていた
ので、ところどころ
に塗料が残っている

目や口の周りに
線の表現

性別不明
年齢不詳



人面付壺形土器「いずみ」の ここがすごい！

世界から注目を浴びている泉坂下遺跡出土人面付壺形土器「いずみ」。その注目すべき点は以下のとおりです。

世界にひとつだけ

比類ない精緻で写実的な表現で、日本の弥生時代の様子を伝える超一級の資料。また、その芸術性から、美術品としての評価も高いです。

大きさ日本一

器高77.7cmで、知られている人面付壺形土器の中で最大の大きさです。

耳たぶに
ピアスの穴

顎が作られた
立体的な表現

優美なフォルム



現代に残る弥生時代の聖地

さいそうぼ 再葬墓って、なんだろう？

泉坂下遺跡は弥生時代中期(約2300~2200年前)の再葬墓遺跡で、平成29年に常陸大宮市初となる国史跡に指定されました。

再葬墓とは、遺体を一旦土に埋めるなどして一度葬^{ほうむ}ったあと、骨になった遺体を壺などに納めて改めて埋葬したお墓のことです。特に弥生時代の中ごろの東日本に見られ、骨を入れる容器として壺形土器を使うのが特徴です。ひとつの墓穴に複数の骨壺を納めているので、個人のお墓ではなく集団のお墓だといえます。

また、人面付土器と一緒に出土するのも特徴のひとつで、泉坂下遺跡では「いずみ」が出土しています。

市では、これらを守り伝えるため、様々な取り組みを進めています。その一環として、平成29年に小中学生向けガイドブック「いずみのツボ」、令和5年に泉坂下遺跡リーフレットを作成しました。市ホームページでもデジタル版を公開していますので、もっと詳しく知りたい方はぜひ二次元コードからご覧ください。



▲泉坂下遺跡に関するガイドブックなどはこちらから



▲泉坂下遺跡からわかる弥生時代の暮らしや、「いずみ」をはじめとする出土品を守り伝える取り組みの一つとして作成した小中学生向けのガイドブック「いずみのツボ」。イラストと親しみのある文章でわかりやすく解説されています。

▶再葬墓の手順。遺体を埋めた場所の目印や土に埋めた遺体を掘り出すタイミングなど、いまだわかっていないことも。



漆工芸家・本間健司さん

世界コンテストでファイナリストに選出

市内に在住する漆工芸家の本間健司さんが、世界的な工芸品の展覧会「ロエベ財団クラフトプライズ2023」に、漆をかき終えた木を再利用した漆器を出品し、見事、ニューヨークのノグチ美術館に展示されるファイナリスト30人に選ばれました。

本間さんの作品は、長い年月をかけて作られた木目を最大限に生かした作風が特徴で、「木を割っている瞬間が一番好き。割ったときに仕上がりまでのイメージがほとんど決定される」と話すほど、本間さんにとって木目は作品の核となっています。今回、エントリーした作品「Contours of past 2022」は日本語に訳すと「跡形」という意味になり、木がどのような環境で、何年生きてきたかが目に見える形で過去の痕跡として現れるというイメージで作成したといいます。

もともとは東京で生まれ育った本間さん。漆芸家の父・本間幸夫さんが盛金地区でウルシの木を植え始めたことがきっかけで、本間さん自身も盛金を拠点に活動するようになりました。本間さんは「さらさらとした特徴の奥久慈漆と常陸大宮市の広大で自然豊かな土地がないと作品は作れない」と話します。木工芸家としての経験と、父・幸夫さんから受け継いだ漆塗りの技術が重なり、一般的には分担して行う木の調達・加工から漆塗りまでを全て自身で行うことで、思い描くイメージを作品に表現しています。

今後さらに海外展開を考えており、「海外に向けて発信することで、漆の魅力が再確認され、日本でも『漆でかっこいい表現ができる』という認識が逆輸入できれば」と漆芸の未来への想いを語ってくれました。



▲米ニューヨークの「ノグチ美術館」で開かれた展覧会「クラフトプライズ2023」展示の様子。本間健司さんの前にあるのが、作品「Contours of past 2022」。



▲本間さんの左側に写るのは10年来の友人で緒川地域在住のダンカン・ナザニエルさん。エントリー時からニューヨーク現地まで通訳を行い、本間さんと海外をつないだ「影の立役者」。

4年ぶりに、緒川で祭囃子が響く

上小瀬祇園祭 開催

6月10日、4年ぶりに緒川地域で地域に根付く祭である「上小瀬祇園祭」が開催されました。

祇園祭は、立野神社の祭礼で、毎年6月の第2土曜日に疫病退散・五穀豊穡を願って行われますが、最近では新型コロナウイルス感染症の影響で、開催が見送られていました。

地域に響く神輿担ぎ手の掛け声や山車から流れる祭囃子に誘われ、老若男女問わず、地域住民が集い、久しぶりの祭りに盛り上がりました。



5/20 宗次郎森の音楽会 in 常陸大宮 開催

緒川地域にあるオカリナーの森野外音楽堂で、オカリナ奏者であり、常陸大宮大使の宗次郎さんのコンサート「2023 春 宗次郎森の音楽会 in 常陸大宮」を開催しました。毎年春と秋に開催され、常に満席で好評のコンサートです。

新緑の森に響く美しい音色と小鳥のさえずりのハーモニーに包まれる穏やかな時間となりました。



▲宗次郎さんの美しい演奏に森全体が包まれました。

5/27 お田植え祭

鷹巣地区のほ場で、JA 常陸の秋山豊組合長、鈴木定幸市長出席のもと、お田植え祭（主催：JA 常陸）が開催されました。これは、市が推進する有機農業推進計画に基づき水稻栽培が開始されたことにもない、豊作を祈願するため行われたものです。

今年は 3.9ha の水田で農薬や化学肥料を使わずにお米が栽培されます。収穫されたお米は、市内の学校給食に取り入れられます。



▲(右) 記念お田植えを行う鈴木市長

5/25 山方中1年生・小野地区民が認知症を学ぶ
6/8 認知症サポーター養成講座 開催

5月25日に小野地区で、6月8日には山方中学校で認知症サポーター養成講座を開催しました。「認知症サポーター」は養成講座を受けて、認知症の正しい知識と理解を持ち、認知症の方やその家族を支える方をいます。講座では劇なども交えながら楽しく認知症について学びました。山方中学生徒からは「劇がわかりやすく面白かった」、小野地区の方からは「できることから始めてみたい」との声が寄せられました。

市では随時、地域や学校などで認知症サポーター養成講座を行っていますので、お気軽に長寿福祉課へご相談ください。



▲山方中学校1年生が受けた認知症サポーター養成講座では、認知症の方との関わり方を劇で伝えました。

6/3・4 友好都市で瑞穂牛をアピール 「肉の博覧会 in おおだて」に出展

友好都市である秋田県大館市で開催された「第8回 肉の博覧会 in おおだて」に出展しました。

昨年に続き2回目の出展となった今回、市の特産品「瑞穂牛」を使用したメンチカツやコロッケ、カットステーキなどを販売し、多くの方に味わっていただきました。

「去年美味しかったからまた来た」とリピーターになってくれた方もいて、常陸大宮市の魅力を、食を通してPRすることができました。



▲常陸大宮市ブースで揚げたての瑞穂牛メンチカツ、コロッケなどを販売しました。

6/5 大宮地域在住 佐藤和男さん 剣道で全国3位に

大宮地域在住の佐藤和男さんが、第45回全日本高齢者武道大会（剣道）75歳～79歳の部で、第3位の成績を収めました。過去にも、同大会で2度の入賞に輝いた実績があり、次こそは優勝するという目標に向かい、現在も、週4回の稽古に励んでいます。また、剣道の最高段位で合格率1%未満の八段審査にも挑戦されており、年齢を重ねても真剣に剣道に向き合う姿勢は、多くの剣友から賞賛され、今後さらなる活躍にも期待が寄せられます。



▲佐藤和男さん

6/14 緒川小児童がを見つけ、育てた国蝶「オオムラサキ」が羽化

今年3月、緒川小学校の校庭で幼虫が発見され、その後飼育されていた国蝶「オオムラサキ」が羽化し、自然へと還されました。オオムラサキは、里山の落葉広葉樹林などに生息していますが、環境省で準絶滅危惧種に指定されている蝶です。

科学クラブの活動で緒川小校庭にある榎の落ち葉からオオムラサキの幼虫を発見したことがきっかけで飼育がスタート。飼育は蝶の生態を学ぶ3年生に受け継がれました。そして、6月14日午前10時ごろ羽化が始まり、貴重な瞬間を見届けました。翌日には3年生全員で校庭の榎の木へと還し、蝶へ別れを告げました。



▲オオムラサキ羽化の瞬間を緒川小3年生が見守りました。

6/18

かわプラザで水戸ホーリーホックのサッカークリニックを開催

道の駅常陸大宮～かわプラザ～の芝生広場で、プロサッカークラブの水戸ホーリーホックのサッカークリニックが開催されました。常陸大宮市は水戸ホーリーホックのホームタウンに加盟しており、加盟後初の市内イベント開催となりました。

イベントには3歳から小学校6年生まで計34人が参加し、パスやシュートの練習、ミニゲームなどを行い、参加者は楽しんでいました。



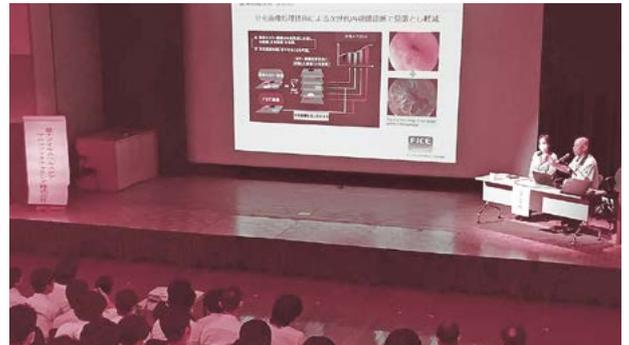
▲シュート練習では、パスを受けてから、相手をよけてシュートに繋げる練習をしました。

6/22

高校3年生対象 市内企業説明会を開催

市文化センターロゼホールで、今年度卒業予定の高校生とその保護者を対象に、市内に事業所を構える企業7社の企業説明会が行われました。説明会は市内企業の魅力を知る機会を作るために令和元年度から開催しています。

今回の説明会には、高校生・保護者58名が参加し、「選択肢を広げることができた」「今度会社見学に行ってみよう」といった意見や感想が寄せられました。



▲市内企業から直接、業務内容や数年前に就職した先輩の生の声を聞くことができました。

6/24

常陸大宮市史セミナー「『常陸大宮市史 資料編2 古代・中世』を読む」を開催

市文化センターロゼホールで常陸大宮市史セミナー「『常陸大宮市史 資料編2 古代・中世』を読む」を開催しました。今回は、「女たちの佐竹一族」と題し、常陸大宮市史編さん委員長で古代・中世史部会長の高橋修さんが講師を務めました。市史ファンの関心も高い佐竹氏の女性たちにスポットを当てたお話は、大変興味深く、参加者からは好評の声をいただきました。

今後、7月29日、8月5日にもセミナーを開催しますので、ご興味のある方はぜひお越しください。



▲セミナー申込フォーム



▲講師を務めた常陸大宮市史編さん委員長 高橋修さん



常陸大宮市スポーツ推進委員会だより

スポーツ推進委員の活動内容

依頼に応じてスポーツの実技指導やニュースポーツの普及活動、地域のスポーツイベントなどに協力しています。

令和5年度活動予定

- ・市内小学校親子学習・放課後子供教室
- ・スナッグゴルフ講師
- ・ヘルスパレー講習会
- ・各地域体育協会主催事業への協力 など



▲事業部会



▲研修部会



▲広報部会

スポーツ推進委員の紹介

【大宮地域】小室 廣明・海老根 博・富田 弘徳・宇留野結美・中村美佐江・松浦 安美
阿久津勝也・鈴木 弘子

【山方地域】相田 仁史・小口 盛・三次恵美子・中島 勤・王前 昭英・大森 泰典

【美和地域】加藤 智久・皆川 悦子・小室 順一

【緒川地域】堀江 甫・三村 勝則・森嶋 優子

【御前山地域】石川 忍・石崎 初枝

ふるさと再発見☆ウォーキング～桜と菜の花を眺めながら小場城跡をめぐる編～ 開催

4月2日（日）にスポーツ推進委員会主催の「ふるさと再発見☆ウォーキング」を開催しました。小場城跡や伝燈院跡、鹿島神社等を巡る約11kmのコースを参加者51名で歩きました。暖かな日差しと風の中、桜と菜の花が満開の道や堤防を歩き、春の陽気を満喫しました。

参加者からは、「説明を聞きながら巡れるため、毎回楽しみにしている。地元に素晴らしい歴史があると感銘を受けた。」などの声があがっていました。



ニュースポーツ実技指導の依頼については、下記までお問い合わせください。

教育委員会文化スポーツ課スポーツ振興 G ☎53-6500

正しい知識で熱中症予防

いよいよ夏本番、暑い日が続く時期になりました。近年は9月下旬頃まで熱中症の発生に警戒が必要な日があります。今年も厳しい暑さが続くことが予想されますので、正しい知識を身につけ、熱中症を予防しましょう。

暑さをさける・にがす

家では

- ・扇風機やエアコンで温度をこまめに調節
- ・遮光カーテンや



外出時は

- ・外出時には日傘や帽子を着用
- ・天気の良い日は日陰の利用、こまめな休憩



体から熱をにがす

- ・吸湿性、速乾性のある通気性の良い衣類を着用
- ・保冷剤、氷、冷たいタオルなどで、体を冷やす



暑さを避けるために「熱中症警戒アラート」にも耳を傾けよう

「熱中症警戒アラート」は熱中症の危険性が極めて高くなると予測されたときに、テレビ、ラジオ、インターネットなどを通じて、お知らせされます。発表時には、外出をなるべく控え、暑さを避けましょう。



▲熱中症予防情報サイト（環境省）

こまめに水分補給をする

室内でも、外出時でも、のどの渇きを感じていなくても、こまめに水分補給を行いましょう。大量に汗をかく外仕事や運動をするときにはスポーツドリンクが、デスクワーク時や屋内で過ごすことが多く汗をあまりかかない場合は、水や麦茶で水分補給を行うのがおすすめです。ただし、スポーツドリンクには糖分や塩分が多く含まれていますので、とりすぎには注意が必要です。

ご注意

暑さの感じ方は人によって異なります

その日の体調や暑さに対する慣れなどが影響します。自分の体をよく知って、些細な体調の変化にも注意しましょう。

室内でも熱中症予防

暑さを感じなくても温度計を見るようにし、扇風機やエアコンを使って温度調整するよう心がけましょう。夏場の室温目安は28℃です。

高齢者・子供・障害をお持ちの方は特に注意

熱中症患者のおよそ半数は65歳以上の高齢者です。高齢者は暑さや水分不足に対する感覚や、暑さに対する体の調整機能が低下しているため、特に注意が必要です。

また、子供は体温の調節機能がまだ十分に発達していないので気を配る必要があります。自分の体に合わせた熱中症対策を取りましょう。

小場の廃寺 伝灯院

常陸大宮市域には、かつて多くの寺院がありました。江戸時代前期の寛文年間(1661~1673)の時点で、常陸大宮市域には少なくとも200を超える寺院が存在したことがわかっています。しかし、徳川光圀や徳川齊昭が実施した寺社改革や、明治初期の廃仏毀釈によって、寺院の多くがその姿を失いました。現在は、地名やわずかな史料、伝承からその痕跡を伺うことができますが、その実態については不明なことが多いです。今回は、その中から、小場地区にかつて存在した伝灯院について紹介していきます。

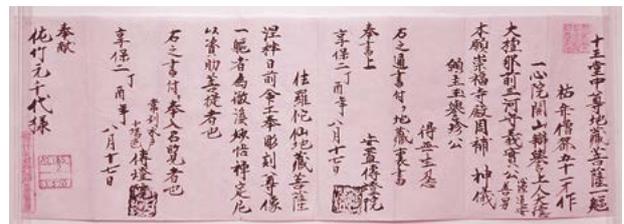
◇伝灯院の歴史

月溪山伝灯院は、小場字月溪山に所在した臨済宗の寺院です。旧小場小学校の西側にかつての境内跡と墓地が現存し、入口には寺名を記した石柱が立てられています。その創立は南北朝時代に遡り、康安元年(1361)に佐竹氏一族・小場義躬が創建し、開山には同じく佐竹氏出身の僧・月山周枢が携わったと伝わります。前号で紹介した常秀寺同様、小場氏の菩提寺として崇敬された寺院の1つで、小場氏歴代当主の内、2代惟義、5代義忠、6代義積の位牌を祀っていたことが「常陸御用日記」の記述から確認できます。特に6代義積の正室である月溪妙清大姉は、伝灯院の活動に大きく関与したとされており、伝灯院殿と称されました。伝灯院では彼女を祀るための御影堂や位牌などが制作されており、これら旧蔵品の一部は小場氏旧臣の三村家に伝来しています。



▲伝灯院跡地(小場地区)

江戸時代に入り、小場氏は国替えによって出羽国大館(秋田県大館市)へと移りますが、約100年経過した正徳5年(1715)、小場氏は常陸時代の事績調査を行うため、旧領である常陸国へ家臣を派



▲伝灯院書状(秋田県公文書館蔵)

遣し、かつての居城である小場城跡や伝灯院・常秀寺などを訪問しました。小場村の人々はかつての主君である小場氏関係者の来訪を非常に歓迎し、面会を求める者が後を絶たなかったそうです。彼らの交流は小場氏家臣が大館に帰ってからも続いており、伝灯院・常秀寺の僧や小場村民の一部が大館へ下向し、再会を果たした様子が三村家に伝わる古文書に記されています。伝灯院の僧は享保2年(1717)ごろに大館を訪問したとされており、同年に伝灯院から小場氏当主宛に出された書状が秋田県公文書館に伝来しています。

◇伝灯院の旧蔵品を展示しました

6月10日(土)~7月9日(日)の間、歴史民俗資料館で企画展「佐竹一族と中世の常陸大宮」を開催し、その一角に伝灯院の歴史と旧蔵品を紹介するコーナーを設置しました。企画展は終了しましたが、展示資料を掲載した図録を刊行しておりますので、興味がある方はぜひお買い求めください(1冊700円)。



▲伝灯院関係の展示コーナー

【参考文献】

・常陸大宮市文書館編『常陸大宮市文書館・歴史民俗資料館連携企画展図録 佐竹一族と中世の常陸大宮』令和5年

(高橋拓也)

■問い合わせ■

文書館 ☎52-0571



水の事故に注意！

水難事故の半数は死亡・行方不明に

令和3年（2021年）に全国で発生した水難事故は1,395件、被災者は1,625人になります。その中で約半数である744人（約46%）が死亡・行方不明になりました。また、死亡・行方不明者の34%は河川で起こっており、特に中学生以下の死亡・行方不明者の58.1%は河川で事故にあっています。

楽しいレジャーや水遊びも、少しのきっかけで命に関わる事故につながる可能性がありますので、十分に注意しましょう。

参考：政府広報オンライン「水の事故、山の事故を防いで 海、川、山を安全に楽しむために」

水の事故を防ぐポイント

●訪れる場所の周辺の天気まで確認

訪れる場所が晴れていても、その河川の上流側で前日に雨が降っていたなどで、みるみる水量が増えてしまったり、鉄砲水がやってきたりします。また、雨が降った数日後まで河川の水が増えていることがあります。天気は数日前の河川周辺の地域（特に河川上流）の天気も見るようにしましょう。

●体調が優れない、飲酒した状態で水辺に近づかない

体調が優れなかったり、飲酒した状態は、判断力や体の感覚が鈍っています。「涼みたい」「自分は大丈夫」というちょっとした気持ちの緩みで川に近づくと、通常時のように体が動かず命を落とす危険性があります。また、飲酒したら絶対に川に入らないように周りの方も注意することが大切です。



●子供から目を離さない

子供は特に水遊びに夢中になり、どんどん深い方へ入って行ってしまいます。子どもからは絶対に目を離さず、手の届く範囲で遊ばしましょう。

●ライフジャケット・スニーカーを着用する

膝くらいの水位でも、転んだりすると、手をつけずに顔を挙げられず溺れる可能性があります。どんなに浅い水深でも川に入る時は必ずライフジャケットを着用しましょう。また、川遊びにはサンダルを履く印象があるかと思いますが、スニーカーの方が、川の流れて脱げにくく、石やガラスの破片などから足を守ってくれます。



全国の水難事故マップ

常陸大宮市に流れる久慈川・那珂川だけでなく、日本全国で過去にどのような事故が起きているかを知ることができる「全国の水難事故マップ」という便利なサイトがあります。海や川に出かけるときにぜひご活用ください。



▲全国の水難事故マップ

地域おこし協力隊が行く！

月替わりで地域おこし協力隊員の活動をご紹介します。
今月は、7月末をもって退任するキャリア教育などで地域振興を行ってきた星野由季菜隊員です。

令和5年7月末をもって地域おこし協力隊を退任いたします。これまで、協力隊の活動と並行して、自分が代表を務める「まちむすび合同会社」でも地域活性化事業を進めてまいりましたが、独立できるめどが立ったことから任期途中での退任に至りました。今後は、「人をむすび、まちをむすび、希望をむすぶ」の理念のもと、「研修事業」「学校教育サポート事業」「地域コーディネート事業」を軸に取り組んでいきます。令和3年4月の着任以降、約2年半、挑戦を見守り、応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。今の私がいるのは皆様のおかげです。今後ともよろしく申し上げます。



星野 由季菜 隊員

Instagram Photo gallery

常陸大宮市で撮影されたInstagram投稿をご紹介します！



Photo by @katsuo247
撮影場所：緒川地域上小瀬地区



Photo by @macha_bluegr
撮影場所：平山橋

常陸大宮市で撮影されたInstagram投稿を抜粋し、市公式Instagramでのリポスト、広報紙掲載を毎月行っています。市内の風景、イベント、何気ない日常など、「#常陸大宮市」「#常陸大宮」「#おおみやファン」などのハッシュタグを付けてご投稿ください！

市の最新情報、ごみ収集日の通知機能などが便利なスマートフォン向けアプリ「ひたまるアプリ」をご利用ください！



iOS



Android

広報常陸大宮 令和5年7月号
(令和5年7月25日発行)

発行：常陸大宮市 編集：企画政策課
〒319-2292 茨城県常陸大宮市中富町3135-6
電話 0295-52-1111
E-mail kouhou@city.hitachiomiya.lg.jp

常陸大宮市の人口
(7月1日現在)

人口：37,531人
(男性：18,580人／女性：18,951人)
世帯数：15,636世帯



再生紙と植物油インクを使用しています。